

中学生の「税についての作文」

大川税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

命を守る税金

大川市立大川桐英中学校

一年 江 島 里 穂

私が小さい時、お兄ちゃんが急に高い熱を出して倒れてしまった時に「税金があつてよかった」と強く思いました。家族がとても慌てて、すぐに救急車を呼びました。数分もしないうちに、赤いランプを光らせた救急車がサイレンを鳴らし、家の前に止まり、救急隊の人たちが駆けつけてくれました。私は初めて間近で救急車を見てとても緊張しました。けれども、隊員の人たちは、落ち着いた声でお兄ちゃんの様子を確認し、てきぱきと処置をしてくれました。その姿を見て、私は少し安心しました。

お兄ちゃんは、病院に運ばれて検査を受けました。結果は大事に至らず、数日で回復することができました。私はその時、「もし救急車がなかったらどうなっていたのだろう」と考えました。家族だけではとても病院まで安全に運べなかったし、もし、もっと症状が重かったら大変なことになっていたかもしれません。後で母から聞いたのですが、救急車や病院の設備には税金が使われているそうです。私は、それを聞

いて、「税金は人の命を守るためにも使われているんだ」と気づきました。普段はあまり意識しないけれど、救急車が、すぐに来てくれるのは、みんなが納めた税金があるからなのだと思います。それから私は、消防車や警察官も税金で働いてくれることを知りました。災害の時に出勤する人や街の安全を守る人たちも「税金」のおかげで活動することができているのです。お兄ちゃんのことをきっかけに、私は「税金は人の生活を守るために欠かせないものだ」と実感しました。

私はまだ中学生なので税金を納めることはできません。でも、大人になったら働いてきちんと税金を納めたいと思います。そして、今度は私が社会を支える一人になって、困っている人や病気の人が、安心できる社会にしたいです。お兄ちゃんが救急車で運ばれた体験は、私にとって「税金があることのありがたさ」を教えてくれた大切な出来事になりました。

